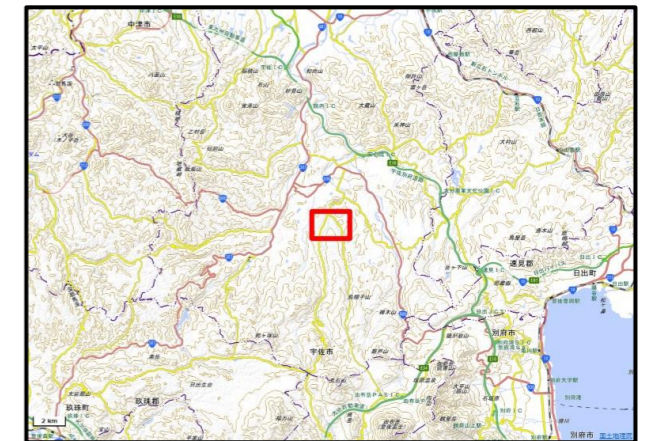
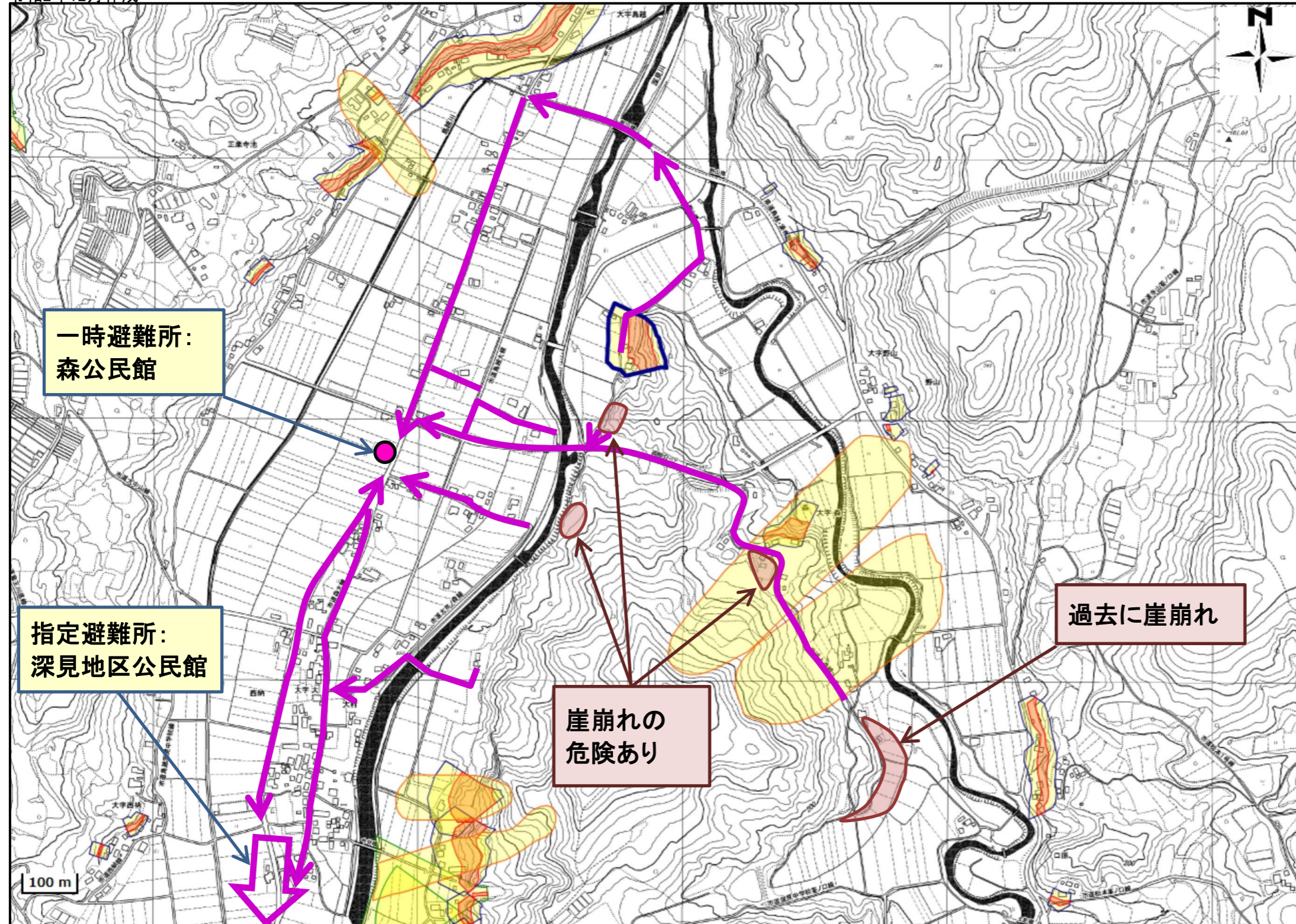


令和2年12月作成



位置図(広域)

| 項目             | 記号 |
|----------------|----|
| 土砂災害警戒区域(土石流)  |    |
| 土砂災害警戒区域(急傾斜)  |    |
| 土砂災害警戒区域(地すべり) |    |
| 土砂災害特別警戒区域     |    |
| 指定避難所          |    |
| 一時避難所          |    |
| 土石流の恐れ区域       |    |
| がけ崩れの恐れ区域      |    |
| 地すべりの恐れ区域      |    |
| 危険が想定される区域     |    |
| 主要な避難路         |    |
| 注意事項           |    |
| 避難場所の説明        |    |

この地図は、大分県知事の承認を得て 5000分の1 森林基本図の電磁的記録を利用し、調製したものである。(承認番号 2-21号 令和2年6月26日)

- 黄色でめりつぶされた範囲(土砂災害警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。
- 赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域」です。
- ・土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となりますので、注意してください。
- ・また、土砂災害警戒区域以外の箇所でも土砂災害の発生する可能性がありますので、自分の住んでいる家の周辺の斜面や溪流、避難場所などをよく確認しましょう。

# 土砂災害に備えて

大雨の時など避難の際に必要となりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

日頃からの確認



雨が強くなってきたら



前兆現象を見たら



避難のときは



①土砂災害警戒区域や避難場所等を確認しておきましょう！

②テレビやラジオ等で気象情報を確認しましょう。

③直ちに市役所に連絡しましょう！

| 土砂災害の種類 | 前兆現象                                                                                                                |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| がけ崩れ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○がけに割れ目が見える。</li> <li>○がけから水がわき出ている。</li> <li>○がけから小石がぱらぱらと落ちてくる。</li> </ul> |

④避難の連絡があったら直ちに避難しましょう！

⑤避難の際はこんなことに気をつけましょう！

- ・溪流から垂直方向に避難し、できるだけ溪流から離れましょう。
- ・避難場所へ避難する際は、他の土砂災害危険箇所や浸水想定区域を避けた避難経路を選択しましょう。

○自主避難。。。危険を感じたら、早めの避難を行ってください。

○避難の連絡があったら。。。避難場所へ避難してください。

避難場所への**避難が困難な場合には、2階以上に避難して、生命を守る行動をしてください。**

前兆現象発見!!

避難

一時避難所

森公民館

指定避難所

深見地区公民館

通報

通報先

宇佐市役所 危機管理課  
電話:27-8111※

安心院支所  
電話:44-1111

院内支所  
電話:42-5111

宇佐市消防署  
電話:32-0119 (119)

宇佐警察署  
電話:32-2131(110)

## ～雨の強さと災害の発生状況～

※時間外・休日は代表番号(32-1111)へ

| 1時間雨量   | 人が受けるイメージ              | 発生状況                             |
|---------|------------------------|----------------------------------|
| 10～20ミリ | ザーザー降る                 | 長く続くときは注意が必要。                    |
| 20～30ミリ | どしゃ降り                  | 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。     |
| 30～50ミリ | バケツをひっくり返したように降る       | 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。 |
| 50～80ミリ | 滝のように降る                | 土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。           |
| 80ミリ以上  | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる | 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。  |

ハザードマップを活用した定期的な訓練への参加を心掛けましょう。